

私たちはご利用者の生活を支援するために24時間がんばります！

ローゼン Rosen だより

2024年10月号

<発行元>

社会福祉法人千葉県福祉援護会

〒273-0047

千葉県船橋市藤原 8-17-2

(ホム^ -ジ)

<https://engokai.or.jp/>

(メール)

info@engokai.or.jp

コロナ禍がきっかけとなった「世代間交流イベント」について

(報告：地域共生支援部 山中玲子 佐々木友希子)

草花もうなだれてしまうほどの猛暑が続く8/3。千葉市あんしんケアセンター稲毛（以下、あんしん稲毛）圏域にある中央介護福祉専門学校の学園祭「ききょう祭」が開催されました。今年のテーマは“彩～日常に色をつけよう～”（内容：オープンキャンパス向け進路相談や認知症についてのブース・同窓会ブース（屋台・高齢者疑似体験）カフェ・縁日）

学校とあんしん稲毛とがつながるきっかけは、今から遡ること3年前。コロナ禍でボランティア活動先を失い、学生の活動の場探しに苦慮していた学校に対し、あんしん稲毛主催のイベントへ協力を依頼したことでした。その後も様々な交流を続け、意見を交換することで互いの目指すものや今後の目標について、理解を深めて来ました。

そして今年。「地域の高齢者の憩いの場として利用してもらいたい」「次世代の福祉人材を発掘したい」という学校の思いと、「地域活動の新たな拠点を見つけたい」「若い世代の健康意識高めたい」というあんしん稲毛の目的が重なり、例年の内容に加え全世代を対象とした“地域密着ゲームスポーツ”も実現しました。

当日は「カラーボールダリング」「お手玉投げ」「座ってできる徒競走」「骨密度・握力測定会」「介護予防相談会」の盛沢山の内容でしたが、地域のケアマネジャー様やいきいきプラザ様、社会福祉協議会様の協力もあり、笑い声の絶えない活気あるイベントとなりました。

参加した方の多くは骨密度測定会への関心が高く、ゲームスポーツへ積極的に参加する方が少ない中、学生に誘われながらゲームに参加すると、スタート前はやや緊張した面持ちになり、思うようにいかずに悔しがったり、大きな声で笑ったり。参加者からは「こんなに楽しいと思わなかった。やって良かった。」「若い頃を思い出して楽しかった。」といった感想が聞かれました。

日頃あんしん稲毛が開催するイベントと比較すると、10代～80代といったかなり幅広い年齢層の方の参加がありました。中には福祉の道を志すことを考えている学生とその保護者の姿も。来場者の多くは学校関係者であったため、掲げた目標全てを達成することはできませんでしたが、とにかくにも今回ははじめの一步。学生と共有した時間や参加者の笑い声は、今後の活動へ向けた励みになりました。あんしん稲毛は前進あるのみ！です。



【スポーツから繋がる社会参加 ～ボッチャの取り組み～】

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、1988年ソウルパラリンピックから正式種目として採用されました。

正式なルールは、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えることにより参加でき、年齢、性別、障害のあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツとして注目を浴び、競技人口も増加しています。

各事業所では正式ルールのボッチャ以外にもボッチャボーリングや点数の的に近づけるボッチャなど、ルールをアレンジすることでレクリエーションとして日中活動などでも楽しんでいます。



【各事業所のボッチャの取り組みと実績】
<p>【ローゼンヴィラ藤原】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県ボッチャ選手権大会参加 千葉県身体障害者施設協議会ボッチャ大会参加 船橋市ボッチャ協会の方によるボッチャサークル活動
<p>【誠光園】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県ボッチャ選手権大会参加 千葉県身体障害者施設協議会ボッチャ大会参加 千葉県ボッチャ協会、船橋市ボッチャ協会の方による指導 毎月1回レクリエーションボッチャ 園内ボッチャ大会
<p>【アトリエプレージュ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月1回レクリエーションボッチャ 特別支援学校との交流戦
<p>【オーヴェル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内ボッチャスポーツ大会 船橋市ボッチャ協会の方による指導

千葉県ボッチャ選手権大会では、千葉県内の障害者施設のご入居者代表選手が集結し、パラリンピック代表選手もゲストとして来場されトーナメント形式で対戦を行います。誠光園では日々練習を重ね、ボッチャ協会の方に直接アドバイスや指導を頂き優勝を目指し頑張っております。

ボッチャは、楽しみながら身体を動かすことができ、筋力維持や健康維持にも繋がり、集中し戦略を考えることで頭脳が鍛えられる効果があるスポーツです。団体戦においては、お互いに協力し合うことで支え合う、助け合う気持ちを養うこともできます。

ボッチャの活動を通して、スポーツの楽しさ、勝った時の喜び、負けた時の悔しさを感じ、日常ではあじわうことのできないスポーツの素晴らしさをこれからも伝え、やりがいや生きがい、目標を持って生活して頂けるよう取り組んでいきたいと思えます。また、他施設の方、特別支援学校の生徒、ボランティア、ボッチャ協会、アスリートなど、多くの方との交流やふれあいを通じ社会との繋がりを感じ、「地域で生き生きと自分らしく暮らす」自立と社会参加に繋がっていると考えます。



【 住み慣れた施設で心身ともに健康的にお過ごしいただくために 】

ケアハウス ローゼンヴィラ藤原は食事の提供を除いては、自立生活を前提とした施設となります。ご自身の生活スタイルに合わせて、必要な場合は介護サービス等を取り入れながら長期的に生活して頂いております。

当施設は、特別養護老人ホームとの併設施設であるため、外出時間に制限はあるものの自由にお出かけができる所が特徴です。しかしながらコロナ渦により思うように外出することが難しい状況が続き、ご入居者の活動量が減少傾向にあるため、少しでも活動的に過ごしていただく方法がないかを検討しました。すでに定期開催の体操はありましたが、より自由に、体調やペースに合わせて行う方法を検討し、フロアの廊下が回廊タイプであることを活かし、気軽に散歩や運動を行っていただけるよう「ウォークラリー」を開始しました。廊下1周分の距離を測り、5mおきに目安として距離の掲示を行いました。すると、普段何気なく利用されていた廊下が「1周70m」と具体的な数字がわかったことで、「私は往復で70m超えるのね」等関心を持たれ、食堂までの行き来にも目的を持っていただけるようになりました。



毎日の移動も運動になるとの気づきから、自発的に取り組みをされる方も増え、1日2回3周ずつ等、毎日の目標設定をされる方もいらっしゃいました。ご入居者同士が散歩中に廊下ですれ違い、互いに励ましあう場面もありました。また、近年の夏場の酷暑もあり、敷地内の散歩も熱中症の危険が伴ったり、大雨等の天候不良に影響を受ける等、外出自体が難しくなることもあり、当初はコロナ渦の外出制限での対策でありましたが、安心、安全な環境で毎日定期的に運動して頂く機会を提供することができました。

運動を行う以外の取り組みでは、余暇活動の充実の一つとして、皆様よりご要望が多かった手芸活動の再開がありました。以前は「目が見えにくくなった」「細かい作業が億劫になった」「やる気が起こらない」等のご意見もあり、参加者減少から定期的な開催は休止となっておりました。そのため活動方法の見直しを行い、ご入居者ご自身の取り組める内容を把握し、その方に対応した支援で、できる限りご自身で作成いただくこと、1回に取り組む時間は短めにし、1～2か月程度ゆっくりと作品に取り組んでいただくこと等変更しました。作品自体は以前よりも難易度が上がったものもありましたが、継続して取り組むことで徐々に気持ちの変化も見られ、完成するころにはお声かけするまで手が止まらなくなるほど集中されました。取り組みを通じ、興味や関心があることについて、また出身地等の話題でお話が盛り上がるが増えました。また手芸を例にとっても得意分野がそれぞれ異なる為、互いに教えあうなど、今までの生活で培われてきたことが活かされ、皆様の活気ある生活につながる機会にもなりました。



これからも様々な活動を企画しながら、皆様の活気ある生活がより充実し、健康的な生活を継続できますよう努めてまいります。当施設での生活にご興味がありましたらご見学も大歓迎です。お気軽にお問合せください。

【地域交流の一環として こどもバザーを行いました】

8月10日にSDGsの取り組みと、地域の方との交流や子育て家庭への交流の場を提供する目的で、わくわくバザーを開催しました。職員、保護者、地域の方よりご家庭で眠っている物を持ち寄って頂き、リユースし長く使って頂く取り組みです。事前に卒園児の保護者の方から「卒園児自らがお店屋さんごっこを行いたい」といううれしいお声がかがありました。そこでバザーの企画で「こどもバザー」を開催することになりました。この「こどもバザー」は自分たちが使わなくなったおもちゃや手作りのアイロンビーズ、くじ引きなどを、手作りのお金で好きな物を買物し、それを持ち帰ることができる仕組みでした。親御さんがお買物をゆっくりとできるようにと卒園児が考えてくれました。卒園児は手書きのかわいいポスターを作成してくれました。お金を入れる用に手作りのポシェットも用意してくれました。お店の説明をしてくれる人、販売する人、包装する人、レジ係など役割分担をされていてとても本格的でした。お買物にきた子どもたち、最初は恥ずかしがってお店に行くことができませんでしたが、卒園児が話しかけてくれたことで少しずつお店での買物を楽しむ姿が見られました。欲しい物をじっくり選んで買う姿や手作りのお金を全部使い切るほど買物する姿も見られ大盛況でした。この交流によって子どもたちは卒園児のやさしさに触れ、自分で欲しいおもちゃを買う経験ができました。そして「おもちゃいっぱい買えたよ」とすてきな笑顔を見せてくれました。



今回「こどもバザー」を通して、卒園してもローゼンかみやま保育園を大事に思ってくれていることに心温まる思いでした。この場をお借りして、卒園児の保護者の皆様に感謝申し上げます。今後も地域の皆様との交流を深め、地域のニーズに応じた子育て支援を行っていきます。

令和5年度分 苦情解決状況の公表 (第三者委員の介入があった苦情の実績)

	(事業所名)	(内容・種別)	(発生日)	(解決日)
①		※令和5年度は、第三者委員が介入した苦情はございません。		

令和5・6年度 ご寄付・ご祝儀一覧

令和6年3月1日～令和6年8月31日に法人各施設にご寄付及びご祝儀をいただきました皆様です。ありがとうございました。

※事前にご承諾いただきました方のお名前を掲載させていただいております。そのほか3名様にご寄付いただいております。

ご寄付いただきました全ての皆様に御礼申し上げます。

ご寄附	ご寄附	ご祝儀	ご寄贈	協賛品ご提供
松本 勇治 様	望月 昌子 様	富士見下町内会 様	—	—
大八木 茂 様	船橋市身体障害者福祉会 様			
木村 一之 様				(順不同)

